

基本目標

まちが元気であるためには、地域産業の進展を図らなければならないことから、産業のさらなる振興をめざし、多彩な産業の育成、誘導を進め、企業活動の拡大、充実を図り、地産地消の推進に取り組み、いきいきとした元気のあるまちづくりを進めます。

また、観光や地域交流を振興し、にぎわいのあるまちづくりを進めます。

第1節 伝統的、先端的な産業の振興

1 農業 2 水産業 3 工業 4 商業

第2節 勤労者対策の充実

1 勤労者対策

第3節 地域資源を活かした観光の振興

1 観光 2 地域交流

1 農業

■ 現況と課題

- 農業を取り巻く環境は、食料自給率の低下、後継者不足、耕作放棄地の増加、農家人口の長期減少、米離れ・日本食離れ、グローバル化に伴う輸入農産物の増加による競争力低下等の深刻な状況があります。
- 本市では、農業従事者の高齢化とともに後継者不足が進み、次の農業の担い手の育成が必要となっています。
- また、遊休農地と耕作放棄地が徐々に増加し、農地転用により農地の点在化が進んでいるため、生産基盤の整備を推進するとともに、遊休農地を活用した市民農園の設置について、検討を進める必要があります。
- 農業用水路、ため池、農道などは、整備されてからかなりの年数がたって老朽化が進んでおり、早急に整備することが求められています。

■ 施策の目標

農業従事者の高齢化と後継者不足にともない、遊休農地や耕作放棄地が増え、農地転用とも相まって農地の点在化が進んでいるなか、農業振興に向け、生産基盤の整備、担い手の育成、遊休農地の解消に取り組めます。

■ 施策の方向

- ① 生産基盤の整備
- ② 担い手の育成
- ③ 遊休農地の解消

■ 計 画

- ① 生産基盤の整備
 - 未改修・老朽化した農業用水路やため池の改良・改修や整備を推進します。
- ② 担い手の育成
 - 近代化資金融資の利子補給など新規就農者や担い手の支援を行います。
 - 地産地消推進のための基盤整備を推進するとともに、担い手となりうる農業生産法人やNPO法人への支援を推進します。
- ③ 遊休農地の解消
 - ☆ 遊休農地の有効活用のために、市民農園開設など、国の農業施策の導入や、国の施策を補完する本市の現状に応じた事業創設に努めます。

まちづくり指標

指 標	現況（実績等）		H27年度 の目標値	H32年度 の目標値
	年度	数値等		
遊休農地比率 （水田のみ）	21	19.3%	↓	↓

資料：生産調整実施状況

▼農林漁業祭



2 水産業

■ 現況と課題

- 水産業をめぐっては、国際的な漁業規制や周辺水域の資源悪化等による漁業生産の減少、担い手の減少・高齢化の進行等内外の諸情勢が大きく変化しています。
- 本市では、播磨灘を主要漁場とした沿岸漁業とのり養殖が営まれています。漁獲量の減少、漁業従事者の減少・高齢化が進んでいるため、漁業環境の改善が求められています。
- 漁業生産活動をめぐる諸条件が悪化するなか、漁場環境の整備、資源の増大を図るため、関係機関との連携のもと、つくり育てる漁業の振興が重要となっています。
- 担い手の確保、育成に努めるとともに、市内4漁業協同組合の合併推進など漁業経営の体質強化を図る必要があります。

■ 施策の目標

関係機関との連携のもとに種苗放流事業などを実施し、水産資源の維持、培養、漁場の再生産力の強化に努め、「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」の定着や付加価値の高い品目の育成を図り、資源管理型漁業をめざします。

また、担い手の高齢化や後継者不足を解決するため、漁業経営の安定と近代化・合理化を図り、魅力ある環境づくりに努め、生産から販売に至る効率的なルートの整備を進めます。

■ 施策の方向

- ①漁場環境の整備
- ②水産資源の確保
- ③経営の近代化
- ④漁業協同組合の経営基盤の強化

■ 計 画

- ①漁場環境の整備
 - 海の保全活動を実施するため、漁業協同組合と連携し漁場の環境整備に努めます。
- ②水産資源の確保
 - つくり育てる漁業の振興のため、種苗の生産、放流事業の拡充に努め、保護育成区域を設定するなど水産資源の確保を実施します。
- ③経営の近代化
 - ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源に関して、漁業経営者が時代に即した技術の習得や経営手法の導入が検討できるような支援を行います。
- ④漁業協同組合の経営基盤の強化
 - ☆組合員の高齢化や、新たな水産業協同組合法の施行に伴い市内4漁業協同組合の合併を促進し、操業や施設の共同化、協業化を進め生産性の高い漁業経営を推進し、担い手の育成に努めます。
 - 直売所などの流通機構の整備を進めていくとともに、遊漁等の観光漁業の推進を実施します。

まちづくり指標

指 標	現況（実績等）		H27年度 の目標値	H32年度 の目標値
	年度	数値等		
漁獲量	20	576t	↗	↗

資料：海面漁業生産統計調査



▲マコガレイ放流



▲ヒラメ稚魚放流

3 工業

■ 現況と課題

- 工業を取り巻く環境は、技術革新による省力化、情報の高度化及び消費者ニーズの多様化への対応などに加え、景気低迷の長期化、世界的金融危機の深刻化や株式・為替市場の大幅な変動の影響を背景に、厳しい状況下にあります。
- 市の経済基盤を支えるかけがえのない工業の発展をめざし、生活環境との調和を保ち、本市の誇る多彩な工業の振興が必要となっています。
- 中小企業の経営指導の充実など経営基盤の強化を図るとともに、時代を先導する新産業への誘導が必要となっています。
- 企業誘致のためのインフラ※1の整備が課題となっています。
- 現経済情勢を反映した、企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律に基づく基本計画の見直しが必要となっています。
- 産業活力再生地区内の工場跡地への企業誘致を進め、関係企業と協議する必要があります。

■ 施策の目標

地域技術を活用したものづくり産業の継続的な活動を維持するため、県及び高砂商工会議所と連携して、新産業の創出や新技術の開発を支援していくとともに、産業活力再生地区への企業誘致を促進し、基幹産業として育成します。また、退職者の技術・技能を活かせる各種支援制度の構築に努めます。

■ 施策の方向

- ①工業の振興
- ②企業誘致の促進

■ 計 画

- ①工業の振興
 - 国、県、市の融資制度活用のPR方法を構築し、融資の推進を図ります。
 - 地域技術活用ものづくり産業の市外、国外への流出を防ぐため、県及び高砂商工会議所と連携しつつ、事業所の状況を把握し、育成支援に努めます。
 - 退職者等の人材活用や技術をいかせる制度を構築し、推進します。
 - ②企業誘致の促進
 - 産業活力再生地区の工場跡地に、先端技術活用ものづくり産業とその関連産業を誘致し、基幹産業として育成します。
 - 企業誘致を促進できるような条件の確立やインフラの整備を行います。
- ☆企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律に基づく基本計画を見直し、推進します。

■関連計画

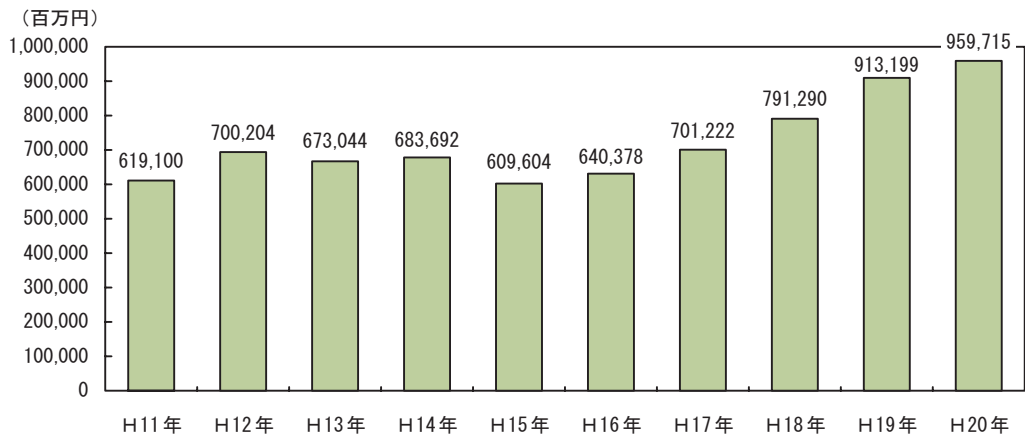
- ◆企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律に基づく基本計画【2008年度（平成20年度）～2013年度（平成25年度）】

計画のポイント：情報家電分野を中心とした先端技術活用ものづくり産業の誘致・集積をめざす。地域技術活用ものづくり産業の事業高度化や競争力強化を図る。大型放射光施設SPring-8を活用した産学官共同研究プロジェクトの推進や、企業の技術者養成、技術相談など利用支援の強化を図る。

※1 インフラ

道路や港湾、鉄道などといった一般の社会経済基盤。

▼製造品出荷額等の推移



資料：工業統計

4 商業

■ 現況と課題

- 消費者ニーズの変化と商業集積施設等の進出により、従前の商店街は空き店舗が目立ち、人の流れも少ないなど、商業力の低下がみられます。
- 市民が豊かな消費生活をおくるためには、多様化、高度化する消費者ニーズと利便性に対応した、魅力ある商業の振興を図る必要があります。
- 小規模商店等の経営の近代化を支援するとともに、大型小売店舗との均衡ある発展を図る必要があります。
- 健全な商業の集積と環境改善のための整備が求められています。
- 各商業地域の特性をふまえた個性的な事業者の育成や商店街の活性化を推進していくことが課題となっています。
- 商業の将来を見据えた事業を実施するには、関係機関との連携が必要となっています。

■ 施策の目標

市内消費活性化事業等を実施し、商業を活性化します。また、高砂商工会議所等商業団体や商店街との連携により、商店街活性化事業活用の研究や研修等を行います。国・県及び市の融資制度活用のPRを行い、融資を推進するなど、商業の振興を図ります。

■ 施策の方向

- ①商業の活性化
- ②商業の振興
- ③商業環境の整備

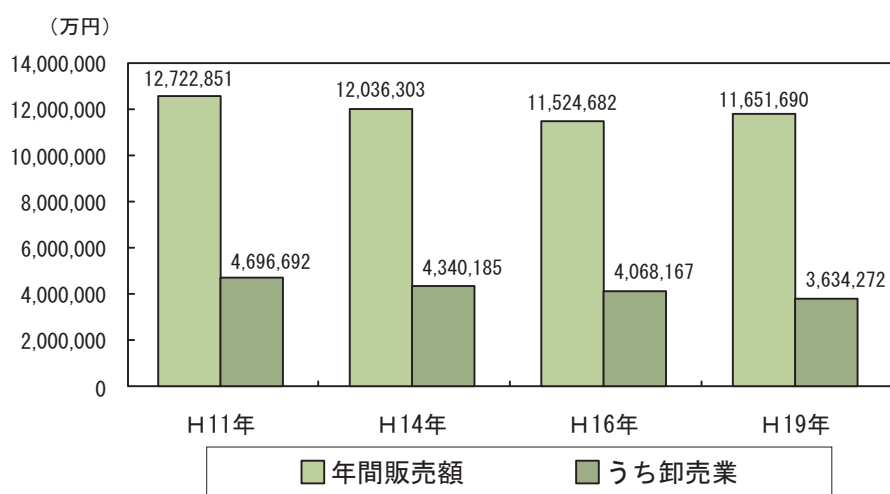
■ 計 画

- ①商業の活性化
 - 市内消費活性化事業の実施を推進します。
 - ☆高砂商工会議所等商業団体や商店街と連携し、商店街活性化事業活用の研究、研修等を行います。
 - 地域ブランド商品の開発と普及、啓発を進めていくことにより地元商業の活性化を促進します。
- ②商業の振興
 - ☆国・県等の融資制度を活用し、空き店舗対策など商業の活性化に向けたソフト事業を民間と協力しながら推進します。
- ③商業環境の整備
 - 地域の特性を考えた商業環境の整備を検討します。

まちづくり指標

指 標	現況（実績等）		H27年度 の目標値	H32年度 の目標値
	年度	数値等		
地域ブランド商品開発数(累計)	21	11	↗	30

▼商業（年間販売額）の推移



資料：商業統計

1 勤労者対策

■ 現況と課題

- 最近の経済情勢は、世界的な金融危機が日本経済に影響を強く及ぼしており、本市においても景気の悪化に伴う雇用率の低下及び失業率増加が進むなかで、地域の事業所や関係機関が一体となり、緊急の雇用対策に取り組むことが重要となっています。
- 勤労者福祉に関して社会生活の変化により、福祉事業のあり方について方向性を打ち出す必要があります。
- 関係機関と連携し、労働環境の改善に努めるとともに、中小企業の勤労者に対する支援を行う必要があります。
- 技術承継に関しては、経験豊富な高齢者がもつ技術と知識を有効活用する環境づくりが必要となっています。

■ 施策の目標

雇用情勢の変化により、就労状況が厳しくなるなか、関係機関との連携のもと、労働環境を整備し、女性、高齢者、若年者、障がい者など多様な市民がそれぞれの能力を発揮し、いきいきと働ける社会の実現をめざします。また、雇用の確保や勤労者福祉の充実に努めます。

■ 施策の方向

- ①労働環境の整備
- ②雇用の確保
- ③勤労者福祉の充実
- ④職業技術と知識の承継

■ 計 画

- ①労働環境の整備
 - 女性、高齢者、若年者、障がい者など多様な市民が、ゆとりある労働環境のなかで各々の能力を発揮できるような広報活動や調査活動を実施します。
 - 労働者を取り巻く環境が激変するなか、行政が担うべき公共サービスと民間で可能なサービスの発掘に努めます。
- ②雇用の確保
 - ☆安定した雇用の場を確保するため、地域産業の振興はもとより、企業誘致や資金調達などの事業者への支援及び就労支援を目的とするネットワーク構築について、地域の事業所及び県や公共職業安定所等の関係機関と連携し、雇用の拡大に向けた取組みを行います。

③勤労者福祉の充実

☆余暇の充実した豊かな勤労生活がおくれるよう、勤労者及び労働福祉団体等と連携し、文化・スポーツ・レクリエーションの機会の拡充や余暇活動に関する情報提供等を図ります。

④職業技術と知識の承継

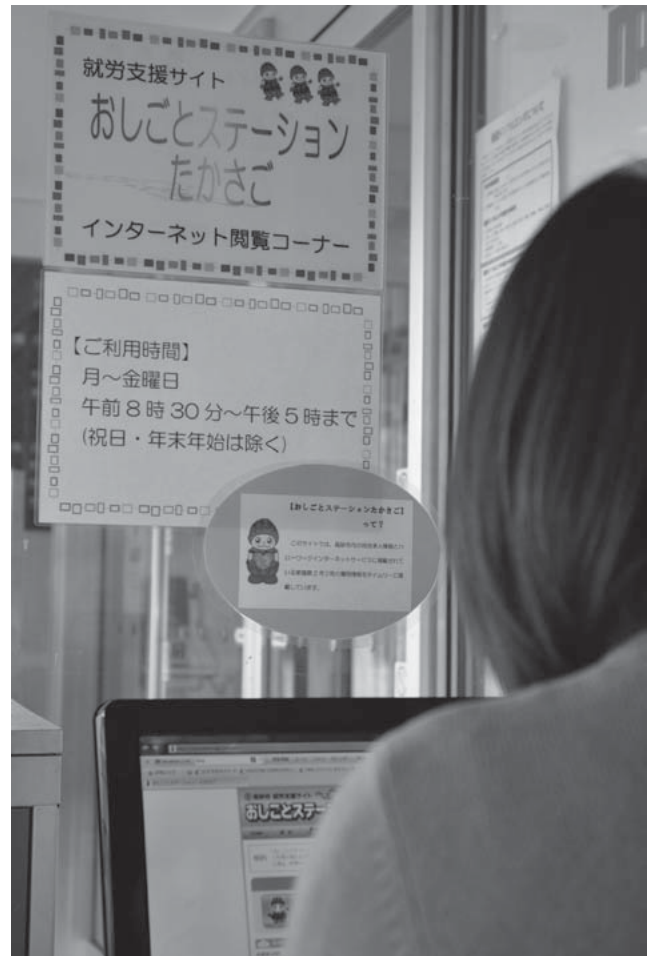
○シルバー人材センターと共に、技術承継のための派遣プログラムや団塊の世代を活用した「IT※1」事業プログラムなど、新たな事業を加えた取組みに努めます。

まちづくり指標

指 標	現況（実績等）		H27年度 の目標値	H32年度 の目標値
	年度	数値等		
職業紹介ネットワーク 登録事業所数	21	0事業所	↗	↗

※1 IT

情報技術（Information Technologyの略称）。情報の処理（コンピュータ）及び伝達（通信）の工学及びその社会的な応用技術の総称。ほぼ同義語として「通信」を明示した情報通信技術も用いられる。



▲おしごとステーションたかさご
(インターネット閲覧コーナー)

1 観光

■ 現況と課題

- 高砂市を訪れる観光客は、年々減少する傾向がみられます。
- 本市では、恵まれた自然環境や文化財を保全、保護しているにもかかわらず、観光資源としてのネットワーク化が形成されていないという現状にあります。
- 少子高齢化の進展や団塊世代の退職が進み、人々の価値観が変化するなか、物見遊山的な観光から、体験型観光へのニーズが高まっています。
- 観光ニーズの多様化に対応し、来訪者が感動するような新たな体験活動の提供や観光拠点の整備とPRが必要となっています。
- 市内で完結する観光のみならず、広域連携により東播磨地域の魅力や素晴らしさが体感できるプログラムづくりや観光ルートが課題となっています。

■ 施策の目標

来訪者にとっても地元市民にとっても魅力を感じ、集客につながる観光資源やルートの再構築を検討します。また、高砂市観光協会等関係機関と連携した観光案内施設の整備も検討します。

■ 施策の方向

- ① 観光資源の開発
- ② 観光施設の整備
- ③ 観光事業の推進

■ 計 画

① 観光資源の開発

☆ 市内各神社での秋祭りや観月能といった伝統文化を観光資源としてとらえるとともに、謡曲「高砂」※1をキーワードとして内外へのPRを推進します。

○ たかさご万灯祭を全国的に有名なイベントにするとともに、会場を構成するまちなみや建築物、寺社等を観光資源として整備します。

○ 「高砂神社」、「石の宝殿」、「曾根天満宮」、「高御位山」等を貴重な観光資源ととらえ、これらを中心とした観光ルートの設定を行います。

② 観光施設の整備

○ 高砂市観光協会、東播磨ツーリズム振興協議会と連携した観光案内施設について検討します。

③ 観光事業の推進

○ 観光地を東播磨地域としてとらえた周遊型観光事業の検討とツーリズム事業の開発を行います。

○ ブライダル都市高砂の新たな展開を検討します。

まちづくり指標

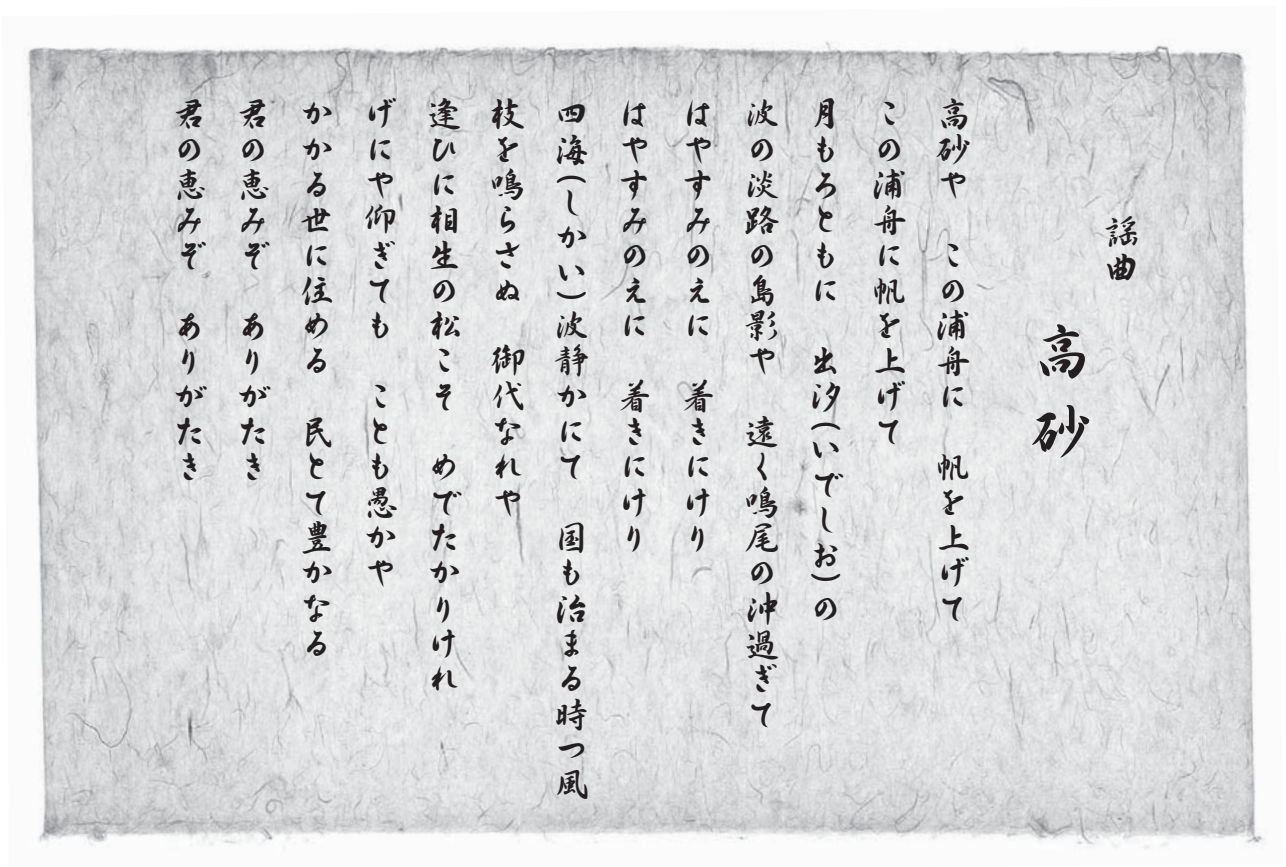
指 標	現況（実績等）		H27年度 の目標値	H32年度 の目標値
	年度	数値等		
観光客入込み数	21	143万人	180万人	200万人

資料：観光施設入込客調査

※1 謡曲「高砂」

「高砂や この浦舟に 帆を上げて 〜」で始まるおめでたい謡（うたい）として結婚式に欠かせない謡曲「高砂」は、室町時代に能を完成させ、謡曲の神様ともいわれる世阿弥元清の作品。

物語は阿蘇の神主友成が上京の途中高砂の浦に立ち寄った際、相生の松の精である老人夫婦と出会うところから始まり、夫婦愛、長寿の理想をあらわした謡曲の代表作。



2 地域交流

■ 現況と課題

- 国内の地域交流は、他地域の異なる文化、歴史、習慣にふれたとき、教養や見聞を広めることができます。
- 交流は、互いのふるさとについての理解と愛着、そして誇りに気づくきっかけとなり、まちづくりに対する関心と意識を高めるうえでも重要な役割を果たします。
- 本市では、2005年（平成17年）以降親善的な交流を行っている都市がないため、今後、兵庫県下の市町との多面的な連携・交流を推進していく必要があります。
- 産業の集積、地元資源、特性をいかした観光・レクリエーション機能の充実を図る必要があります。
- 全国規模で多方面の人々と多様な交流を行い、視野を広め自らのまちづくりにいかしていくことが望まれます。

■ 施策の目標

観光の形態の多様化に対応し、新たな地域交流の創出を支援します。広域展開を図るための基盤整備、交流拠点の形成、地域のブランド化、新たな地域文化の創造を通して、観光や産業とも連動した活性化を図ります。

■ 施策の方向

- ①交流拠点の形成
- ②地域のブランド化と情報発信
- ③新たな地域文化の創造

■ 計 画

- ①交流拠点の形成
 - 新たな観光資源の発掘と創出により、地域性、地元資源をいかした観光・レクリエーション拠点の整備・充実に努めます。
- ②地域のブランド化と情報発信
 - ☆まちの魅力を再発掘、再発見し、まち全体のブランド化を図るとともに、新しい事業プロモーションを行い、高砂市のイメージアップにつながる多様な情報についてホームページ等を通じて積極的に発信します。
- ③新たな地域文化の創造
 - 地域の特性を相互に補完しあえる国内都市との多様な交流に努め、それぞれのまちの歴史や風土等にふれあうことによって、新たな地域文化の創造を促進するとともに、地域の活力や魅力を高めます。

まちづくり指標

指 標	現況（実績等）		H27年度の目標値	H32年度の目標値
	年度	数値等		
情報媒体の設置箇所数	21	80箇所	↗	↗

※「情報媒体の設置箇所数」とは、ポスターやパンフレットなどの情報媒体を県内外の公共・観光施設などに設置した箇所数を示します。

▼駅前観光案内所ちちり



▲駅前観光案内所ちちり（店内）